

人間の尊厳と自立支援

これからの介護のキーワードは「自立支援」「人権擁護」「自己選択」です。利用者の自主性と自律性を尊重して、身体介護だけではなく、心的介護ができる介護人材になるために、この科目を必修にしています。利用者の希望に配慮して、自己決定に基づく自律的生活を支援する介護福祉士を目指します。

多文化共生

我が国の介護現場には、多くの外国人の方々が既に働いています。また、今後、数十万人の海外の方々が介護現場で働くために日本にやってきます。そうした状況におけるリーダー的存在を養成するために、この科目を必修化して、全員が多文化の環境で働けるようになることを目指しています。

介護総合演習 I

本科目は、臨地実習を行なうためさまざまな学習を行います。本学科では、従来の同科目の内容に加え、地域の方々を学内に招待し、学生がデイサービスを実施しています。学びの場はキャンパス内の教室の中だけではありません。学校を取り巻く地域も学生にとって貴重な学びの場です。デイサービスでは、すべてのプロセスを学生たちだけで考えて実践します。デイサービスを地域の方々との繋がりを感じながら、デイサービスを実施する本科目は、日本でここにしかないユニークな教育プログラムです。

人間の理解とコミュニケーションの基礎

介護福祉のコミュニケーションは、利用者を対象とするものと、スタッフ間でのものの二種類があります。単に日本語を話せば通じるというものではなく、コミュニケーションにはスキルとタクティクスが必要とされます。心を動かす介護には良好なコミュニケーションが必要で、多職種のケアチームには相互理解を促進するコミュニケーションが不可欠です。その方法と利用の仕方について 2 年間で身につくように指導していきます。

大学で学ぶ

学生にとって、大学での学びはこれまで学習とは異なる新たなチャレンジのため、初めは戸惑うこともあります。本科目では、大学での学びにスムーズに移行するためのプログラムが設けられています。特に、施設実習における日誌の書き方は、専門性が求められるアカデミックスキルです。求められるスキルをスモールステップで学ぶことができる科目です。また、大学での学びは地域の方々にも支えられています。この授業でも、地域とのつながりを特に重視しており、年 2 回、学校周辺の清掃活動を行っています。この活動の際、地域の自治会の方々と学生の交流が自然に生まれています。